



安全な水とトイレを世界中に（火曜 2 クラス）

① 2030年までに、だれもが安全な水を 安い値段で利用できるようにする。

② 2030年までに、だれもがトイレを利用できるようにして、屋外で用を足す人がいなくなるようにする。女性や女の子、弱い立場にある人が どのようなことを必要としているかについて 特に注意する。

③ 2030年までに、汚染をへらす、ゴミがすてられないようにする、有害な化学物質が流れこむことを最低限にする、処理しないまま流す排水を半分にへらす、世界中で水の安全な再利用を大きくふやすなどの取り組みによって、水質を改善する。

④ 2030年までに、今よりもはるかに効率よく水をつかえるようにし、淡水を持続可能な形で利用し水不足でくるしむ人の数を大きくへらす。

⑤ 2030年までに、必要な時は国境をこえて協力して、あらゆるレベルで水源を管理できるようにする。

⑥ 2020年までに、山や森林、湿地、川、地下水をふくんでいる地層、湖などの水に関わる生態系をまもり、回復させる。

〈参考〉

水道がない地域に生まれた女の子の1日



水道の蛇口をひねれば、きれいで安全な水がでてくる生活はあたりまえではありません。13歳のアイシャは、水くみへ6時30分に歩きだし15時にもどります。水くみに毎日約8時間ついやします。

トイレのない生活



世界ではいまだ、3人にひとりかトイレを使えません。屋外排泄によって、病気の原因となる細菌が、人の手や、虫、川の水を介して人の口に入り、病気になり命をおとっています。